

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170102376
法人名	社会福祉法人 千代田会
事業所名	ウェルビュー明郷
訪問調査日	平成 19年6月14日
評価確定日	平成 19年7月18日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2170102376
法人名	社会福祉法人 千代田会
事業所名	ウェルビュー 明郷
所在地	岐阜県岐阜市真砂町一丁目20番地の2 (電 話) 058-255-3313

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年 6月 14日	評価確定日	平成19年7月18日

【情報提供票より】19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 8.75 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	0 名	要介護2	4 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.22 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝日大学歯学部付属村上記念病院、竹内クリニック、上杉歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

金華山と長良川を身近に感じることができる、ケアハウス併設のホームである。その地理的特性を活かし、夏の長良川花火大会の折りにはホーム利用者の家族や地域住民を招いて鑑賞会を催したり、毎月の映画上映会や秋のフリーマーケットでの交流など、“地域に溶け込む働きかけ”を実践している。開設5年を経過し、自治会の集会で介護相談会を行ったり、災害時の協力が要請できるなど、地域との親密な関係を築き上げている。またホームでは、“個別対応”にも力を入れており、食事、入浴、外出など利用者一人ひとりの希望やペースに沿って支援している。特に月に一度、個別の外出日を設け、利用者が希望する所に出かけている。「その人と共に、穏やかに暮らす」の理念が表すように、一日がゆったりと流れ、安らぎを感じるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で出された改善課題について会議で検討を行い、改善目標および期間を決めて改善計画が立てている。項目としては ①理念のホーム内および書面での明示 ②ホーム便りによる、より具体的な情報提供 ③注意の必要な物品の保管、管理の再検討、の三点であり、すべての項目について取り組みを行い、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議において、評価の意義や内容について話し合いをもっている。その後全職員で自己評価に取り組み、意識の統一化および日々のケアの振り返りを行っている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年は岐阜市のブロックごとに開いていたが今年度より事業所独自での開催となり、近々の会議を予定している。利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、市介護保険室職員の参加の他、老人会の方にも参加を要請している。現在、参加者からの活発な意見が出る双方向の会議を目指し、討議内容を検討している。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に事業所内外の苦情相談窓口を明示するとともに、花火鑑賞会および忘年会の機会を利用して家族会を開き、家族の意見を聞いている。日頃より家族の訪問も多く、意見や苦情を言いやすい雰囲気作りに努めている。出された意見や苦情は会議で取り上げ、運営に反映させている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、会合や老人会の集まりに参加している。時には「介護なんでも相談室」を開催し、地域住民の相談を受けることもある。またホームで行う毎月の映画上映会、夏の花火鑑賞会、秋のフリーマーケット、カラオケ大会など、回覧板で地域の人に声をかけ、交流を深めている。地域の防災訓練には利用者、職員ともに参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「豊かな暮らしを提供する」とともに、ホーム独自の理念である「その人と共に、穏やかに暮らす」を明示している。開設以来“地域の中で暮らす”ことは当たり前のこととして捉えており実践も行っているが、法令の改正に伴った理念の見直しが行われていない。	○	法令改正によりグループホームが地域密着型サービスの一つとして位置づけられたことに伴い、改めてその意義やホームとしての役割を職員全員で確認し、独自の理念を作り上げることが求められる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体の職員会議および、ホームでの会議において、折りに触れ理念の実践に向け話し合いをもっている。また現場での具体的な場面においても、職員同志、理念に基づいたケアを確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、会合や老人会の集まりに参加している。時には「介護なんでも相談室」を開き、地域住民の相談を受けている。またホームで行う毎月の映画上映会、夏の花火鑑賞会、秋のフリーマーケット、カラオケ大会など、回覧板で地域の人に声をかけ交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議の中で、評価の意義や内容について話し合いがもたれている。その後、全職員で自己評価に取り組み、意識の統一化および日々のケアの振り返りを行っている。また外部評価で出された改善項目については職員会議で検討し、改善計画を立て取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は市内ブロックごとに開催され6事業所合同でおこなっていたが、今年度よりグループホーム独自で開かれることになり、近々第一回を予定している。参加者として、利用者、家族、自治会長、市介護保険室職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員を考えている。	○	会議ではホームの現状を報告するだけでなく、ホームの問題点や困っていることを議題にあげ、多くの意見を引き出す双方向での取り組みを期待したい。また、自己評価および外部評価の意義を説明し、結果を公表した上で改善課題について話し合う機会となること、加えて、参加者には課題への取り組みのモニターの役割を担ってもらうことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの会議に参加し、情報交換を行うと共に実践報告をしている。また管理者が一週間に一度、市の介護保険室を訪ね、ホームの現状を話しアドバイスを求めるなど、関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便りを送付している。個別には利用者一人ひとりの暮らし振りや様子など、写真を添えて報告している。また、金銭出納報告書も同封している。	○	金銭の出納については、家族による確認後、定期的に印鑑あるいはサインをもらうシステムを検討し、責任が明確になる対応が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏の花火鑑賞会、暮れの忘年会の機会を利用して、年2回家族会を開き、家族の意見を聞いている。日頃より家族の訪問が多く、意見を言ってもらえる関係づくり、雰囲気作りに努めている。また重要事項説明書にホーム内外の苦情相談窓口を明示し、契約時には説明している。出された意見や苦情は会議で取り上げ、運営に反映している。	○	サービスの質の確保や向上のためには家族等の意見が重要であることを繰り返し説明し、意見や苦情を引き出しやすい雰囲気を作り出すための、さらに積極的な取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えている。やむを得ず職員が替わる場合は法人内での異動とし、共通の方針を持ち、利用者の情報を十分知ることによって利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。異動時には必ず新旧の職員がオーバーラップする準備期間を設け、スムーズに移行できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について、希望者にはできる限りその機会が与えられ、受講後は会議で発表し報告書を回覧している。ホーム内での新任研修では現任職員が一对一で対応し、働きながら学ぶ機会を作っている。また現任職員を対象に、振り返り研修も行っている。	○	ホームとして、すべての職員が個々の段階に応じた研修を受講できるよう、現在体制作りを検討している。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一回、市のグループホーム協会ブロックごとの意見交換会があり、交流を図るとともに、互いのホームを見学しサービスの質を向上させようという取り組みが提案されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みを受けてから本人および家族と面談し、利用が近くなったら見学を勧めている。ダメージのない入所につなげるため、利用者の状態を十分把握できるような面談を重ねている。現在は体験入所を行っていない。	○	ホームとしては、安心してホームでの生活が始められるよう体験入所に取り組みたい意向を持っており、現在検討中である。また宿泊を考えるだけでなく、サービス開始前にホームに遊びに来てもらうことから始め、その時間を少しずつ増やすなど、他の利用者やホームに徐々に馴染めるよう、段階的な支援を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりがそれぞれの生活歴を持っていることを踏まえ、一緒に過ごし分かり合える時間を大切に考えている。台所仕事では職員が利用者から教えてもらうことも多く、また個別の外出時には利用者の話に共感したり感動する場面も多々ある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一で外出する折など、利用者が自分の気持ちや思いを表すことが多いので、その把握に努めている。利用者から聞くことが困難な場合には、生活歴、家族からの情報、レクリエーションに参加するかしないかなどの選択場面などを参考に、利用者の立場に立って意向を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に、利用者、家族、医療関係者の意見を反映して作成している。利用者のそれまでの暮らしを大切にし、散歩、買い物、理美容院、かかりつけ医受診など、利用者個別の計画になっている。作成した介護計画は家族に送付し、意見を聞き同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の担当職員が、定期的および状態変化に伴う随時見直しを行っている。その後見直した内容を介護会議にかけ、他の職員の気づきや意見を聞いた上で新たな介護計画を作成している。	○	ホームとして、入所して長い利用者についてアセスメントの見直しを検討している。見直しや評価は一つ一つ丁寧にされており、その結果についても明確に記録として残されているが、利用者一人ひとりに提供されるサービスがどのように変わったか、一目でわかるような記録の工夫を検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービスの他に自主サービスとして、医療機関に家族が同行できない場合の代行や、行きつけの美容院への送迎、個人的な買い物の付き添いなど、利用者や家族の要望に応じた支援を行っている。	○	今後、地域で暮らす認知症高齢者に対して、ホームで培ってきた職員の機能や認知症対応のホームの環境を活かし、ショートステイや共用型デイサービスなどの事業に積極的に取り組まれることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に沿い、ホームの協力医の他、かかりつけ医への受診支援を行っている。受診の際には家族が付き添う場合が多いが、状況に応じてホーム職員が同行する場合もある。またホームに往診してもらっている利用者もいる。ホーム協力医およびかかりつけ医とは受診結果を含め情報交換を密に行い、関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、早くから利用者一人ひとりについて家族も交え話し合いの機会を持っている。しかし、ホームとしてターミナルケアに対する方針は統一されていない。	○	現在、利用者の重度化した場合を考慮し、浴槽の改修を計画している。将来的に看護師の配置も検討されているが、職員をはじめとした関係者間でこの問題について段階的に検討し、ホームとしての統一した対応方針を定め、文書として家族等に表明されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や勉強会の折りに、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねるような声かけや接し方をしていないか確認し合い、実践に活かしている。また介護記録などの個人情報の保管には注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日のスケジュールはあるが、利用者一人ひとりの希望やペースを第一に考え柔軟に対応している。体調により食事時間をずらしたり、急な外出希望にもできる限り対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、献立決め、買い物、調理、盛り付けをできる部分で職員とともに行っている。食事の時は常に一人ひとりのペースを大切に、昔話や食材、あるいは地域の話などしながら楽しい時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴担当の職員を一人配置し、夕方から夜にかけての入浴希望に応えている。週三回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴を拒む利用者に対しては声かけや対応を工夫し、職員が情報を共有して支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、コーヒーの準備、雑巾縫い、食材の買出しなど、日常の暮らしの中で一人ひとりに合った役割を見つけ、支援している。玉ねぎの皮むきが得意な男性利用者には、その役割を担ってもらっている。梅干漬け、らっきょう漬けではそれぞれ役割があり、毎年の楽しみごとになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけたり、個別に買い物に出たり、行きつけの理美容院に出かける人もいる。急な外出希望にも、出来る限り対応している。一ヶ月に一度、個別の外出日を設け、職員と一対一で希望するところに出かけている。また、バスを借りて全員で遠出する機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が利用者の立場に立ち、日中鍵をかけないですむ工夫に取り組んでいる。玄関にセンサーを設置するとともに、職員は利用者の生活歴を把握し、常に利用者の動きに注意を払っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内での避難訓練を年3回、消防署の指導による訓練も行っている。また地域の防災訓練に利用者、職員ともに参加しており、自治会に災害時の協力も要請してある。災害用の備蓄はホーム独自でも行っているが、法人施設としても十分整っており、非常持ち出し袋も備えている。各居室の家具は、転倒防止の措置を施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりについて、毎食の摂取量と一日の水分摂取量を記録し、おおまかに把握している。医師の指示のある利用者は排尿量(オムツの重量変化によるものも含む)も記録し、報告している。また食事量や栄養バランスについては定期的に法人内管理栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には緑や季節の花が飾られ、食堂や居間の大窓からは庭の緑が見渡せるなど、心安まる配慮がある。日中は静かな音楽が流れ、穏やかな照明とともに居心地の良さを感じる。また梅干漬けやらっきょう漬けの匂いが生活感や季節感をかもし出し、利用者の活力を引き出す助力になっている。	○	数ヶ所あるトイレの便座の位置が高く、改修を検討中である。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス、ベッド、鏡台、テレビ、仏壇など慣れ親しんだ物が持ち込まれ、それぞれの好みに配置されている。自宅での生活が継続されることにより、利用者にとって安心して過ごせる居室になっている。また刺繍の額など利用者手作りの作品が飾られ、その人らしさを感じることができる。		